

---

---

## 開会挨拶



### 武田信照

〈愛知大学長〉

本日は愛知大学の国際中国学研究センターの発足を記念いたしまして「21世紀の日中経済関係のゆくえ」をテーマといたしまして講演会を開催いたしましたところ、かくも多数の方々のご出席を得まして主催者を代表して大変厚くお礼を申し上げる次第であります。来賓の方々もわざわざ足をお運びいただきまして心より感謝を申し上げます。

本日の講演は本学からは加々美光行教授、学外から、東海日中貿易センターの会長をお務めになっている横井明豊田自動織機会長、それに杜進拓殖大学教授にお願いをいたしました。お忙しい中、快くお引き受けいただきまして厚くお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございます。

ご承知かと思いますが、昨年度より文部科学省は「21世紀 COE (Center of Excellence) プログラム」をスタートさせました。このプログラムの目的は、世界最先端の研究教育拠点をわが国の大学に構築することにあり、そのためにその形成を資金的にも重点的に支援するものでありますが、そのプログラムに愛知大学の国際中国学研究センター

の構想が採択されたということは、本学にとって誠に名誉なことでもあります。

愛知大学は戦前、中国にごぞいました東亜同文書院大学の関係者が中心となりまして第二次世界大戦敗戦直後に創立された大学であります。前身校の伝統を受け継ぎまして、中国に関する研究教育を重視してまいりました。大学院に中国研究科、学部には現代中国学部をもつ大学は他にはありません。この伝統と実績が今回の国際中国学研究センターの採択にあずかって力があったということはいうまでもないと思っております。

今回の構想には3つの柱があります。一つは、中国に関する国際的な研究ネットワークを構築し、愛知大学がそのハブセンターとなることでもあります。二つは、5つの国際的研究会および国際シンポジウムを組織して高いレベルでの学問的交流と対話を成立させることでもあります。三つは大学院に海外合作コースを設けるなど、大学院教育の国際化を通して優れた若い人材を養成することでもあります。

この構想を実現することは、愛知大学の中国についてのこれまでの研究教育の伝統をさ

---

らに発展させるというにとどまらず、日中関係の将来にとって有益な役割を果たしうるものと、固く信じて疑わないものであります。

本日は、中国をめぐるさまざまな課題のうち、これからの日中経済関係に焦点をあてます。日中経済関係が、長期的には緊密さと重要性を増していくことは確実でありますけれども、SARS による思わぬ影響に象徴される

ように、現実には手放しの楽観を許すほど単純ではありません。そこにどんな問題が伏在するのか、またどんな展望を描くことができるのか、こうした諸問題を探る上で、本日の記念講演会から有益な示唆が得られることを期待して、私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

